

# 対馬アクションリサーチ合宿の目的

阿部 治

## はじめに

対馬市との連携協定を機に 2016 年度から本学学生の学びの場として活用させていただくと同時に、本地域創生研究プロジェクトを通じて対馬市の地域創生に資する具体的な研究活動を展開してきた。特に対馬市で課題となっている学校統廃合問題に焦点を当て、以下の問題意識と目的をもちながら、継続的な調査（2016 年度～）を実施している。

## 研究背景・問題の所在

地域社会において学校は、授業や行事、地域活動を通じて、学区内の人的資源（資本）や自然資源（資本）、歴史・文化資源（資本）などの見える化・つなぐ化に大きな役割を果たしてきた。また同時に学校は地域の過去・現在・未来をつなぐ存在でもある。特に、地域の子どもに対する教育活動が地域の社会関係資本との密接なかかわりのもとでなされてきた。また、学校の持つ学びは、子どもの成長だけではなく、地域の大人たちの成長をも促し、両者の相互作用から生み出される社会への信頼と地域の誇りの醸成は、地域社会の持続可能性に大きく関わっている。すなわち、地域のサステナビリティの視点からみると、学校はあらゆるものをつなぐ装置としての機能を果たしてきたのである。

このように、学校が地域社会で有する機能は多面的であり、重層的である。しかしながら、今日の農山村での過疎化に伴う人口減少の下、全国的に学校の統廃合が実施されている。このような状況の下、学校が地域社会において果たす役割をどのように維持していくのかが大きな問題となっている。特に、コミュニティの基本単位とも重なる小学校区においては、学校の存在が地域の持続可能性にとって非常に重要であると考えられる。

## 調査の目的

本調査では、学校の統廃合が地域にもたらす影響や問題について、学校が地域のつなぎ役としてどのように機能している（してきた）のかを持続可能性の視点を含め様々な視点から明らかにすることを目的とする。

## 今年度の概要

今年度は、対馬市立佐須奈小中学校・仁田小学校・厳原北小学校・対馬高校や佐護地区の住民にヒアリング調査を行い、ESD の取り組みを調査した。具体的には、各関係者への調査により、ESD の教育的価値の確認と地域コミュニティの維持に果たす ESD の役割を把握し、廃校に伴う課題の抽出を行った。また、対馬高校ユネスコスクール部と交流し日本では対馬市のみに生息する絶滅危惧種であるウラボシシジミ（蝶）の保全活動を行った。

## 《対馬アクションリサーチ旅程》

日付		行程
1 日目	8/6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬空港着</li> <li>・対馬市長表敬（対馬市長 比田勝尚喜氏）</li> <li>・対馬市教育委員会訪問</li> <li>・ヤマネコナイトツアー</li> </ul>
2 日目	8/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウラボシジミ保全活動参加</li> <li>・対馬高校ユネスコスクール部との交流</li> <li>・対馬野生生物保護センター見学</li> <li>・佐護地区住民ヒアリング</li> <li>・ヤマネコナイトツアー</li> </ul>
3 日目	8/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬市立佐須奈小中学校ヒアリング （佐須奈小中学校 長田校長）</li> <li>・対馬市立仁田小学校ヒアリング （仁田小学校 畑島教諭）</li> </ul>
4 日目	8/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬市立厳原北小学校訪問</li> <li>・対馬高校訪問・意見交換 （対馬高等学校 立木校長）</li> </ul>
5 日目	8/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島内見学</li> <li>・アクション・リサーチ終了後解散</li> </ul>

### 【アクションリサーチ参加者】

阿部治（立教大学社会学部教授、同 ESD 研究所所長）、古茂田香、布井佑紀、江端総、花田早希（以上、立教大学社会学部現代文化学科 3 年、阿部治担当専門演習 2 所属）、松本和花子（立教大学社会学部現代文化学科 2 年、阿部治担当専門演習 1 所属）

### 【コーディネート】

吉野 元氏（一般社団法人 MIT）